

青森県 春季高校野球

第1日

春季青森県高校野球選手権は21日、八戸市長根球場と六戸町メイプルスタジアムで開幕し、1、2回戦計6試合が行われた。1回戦では三本木、工大二、弘学聖愛、弘前実が勝ち、2回戦に進出。2回戦では八学光星と木造が準々決勝に駒を進めた。第2日の22日は2会場で2回戦の残り5試合が行われる。六戸メイプルで予定されていた2回戦「三沢商-工大二」は、三沢商が学校事情で辞退したため、工大二が準々決勝に進む。（取材班）

2回戦

八学光星 1 2 1 0 5 4 | 13
 大湊 1 0 2 0 0 0 | 3

(6回コールド)

(八) 洗平、越田、宇田-石井
 (大) 津島、武田-木村

▷三塁打 井坂、中澤、越田 (八) ▷二塁打 深野、中澤、石井、織笠 (八) 菊池、若山 (大) ▷暴投 洗平 (八) 津島 (大)

▷試合時間 1時間47分

(球審=梅田、塁審=大森、小倉、関)

【評】八学光星は1点リードの五回、中澤の左翼線二塁打を皮切りに長短5安打を集めて5得点。六回は織笠の適時二塁打などで4点を加え、突き放した。大湊は相手先発の不安定な立ち上がりに付け込んで三回までに3点を奪ったが、四回以降は抑えられた。

【2回戦・八学光星-大湊】八学光星は先発の洗平歩人が3回3失点を喫する=六戸メイプル



光星 コールド発進

打線活発、エースは「空回り」

○：昨春Vの八学光星は打線が18安打13点と活発で、貴塚の6回コールド勝ち。仲井宗基監督は「打撃は非常に良い状態。秋は打てなかったので、冬もしっかり鍛えてきたが、ある程度手応えを感じた」とチームの仕上がりに納得の表情を浮かべた。
 一方、先発した主戦洗平歩人主将は3回6安打3四球、3失点で途中降板。洗平主将は「重気込み過ぎて空回りしてしまった。精神面をコントロールできるような内容に反響。速調を自指すにはエースの復調が不可欠だけに、「仲間を心配させないよう、修正していきたい」と次戦以降を見据えた。

大湊 食らい付き3得点

○：大湊は先発した八学光星のエースを早々と降板。左越えに同点二塁打を放つ

振った。三回にも、若山雨威の適時二塁打などで2点を返し、食らい付いた。津島悠聖主将はこの1週間（八学）光星の投手を想定した速球対策が生きた」と話した。
 もっとも、結局は尻上がりに調子を上げた八学光星に大敗。
 津島主将は「現チームは中盤以降、打線が振るわなくなる。いい打撃を続けるために集中力を高めて、夏こそ強私立を倒す」と闘志を燃やした。